



「サービス」と「セキュリティ」のあり方を軸に変化に対応できるシステム構築を

■ 現在は本格的なユビキタス化の準備段階

いつでもどこでも自在に通信ができ、生活やビジネスが円滑に進むユニバーサルな社会。そんなユビキタス構想は、着実な実現に向けて進んでいます。携帯電話のネットワークは、すでに大容量のデータをメガビットの高速で処理する3.5世代の商用化がスタートしており、数年後には100メガビットを目標とする3.9世代・Super3Gの導入が視野に入っています。それに歩調を合わせ、携帯電話やPDAなどの携帯端末も、機能や性能の両面で向上・多様化され、今後はさまざまなアプリケーションを無理なく搭載しうるビジネス用のハンディな機器も多数開発されることでしょう。

また一方では、2010年をめどに、NTTグループは光電話の3000万加入をベースに、電話サービス用の固定電話網を、IP技術を使った次世代通信網とする計画を進めています。この次世代ネットワーク「NGN」(※「NGN」についてはP13~14を参照してください)では、移動体通信と固定電話通信、データ通信、放送とが融合した、新たな通信形態が実現するでしょう。

このようなIP化が実現すれば、通信と放送の融合がいよいよ現実のものとなり、携帯端末やパソコン、

テレビ、家電などがすべて統合されたIPネットワークで結ばれ、ユビキタス社会の利便性が大きく花開くこととなります。現在はまさに、その準備段階にあると考えていいでしょう。

■ ビジネス分野ではユビキタスオフィス化が進展

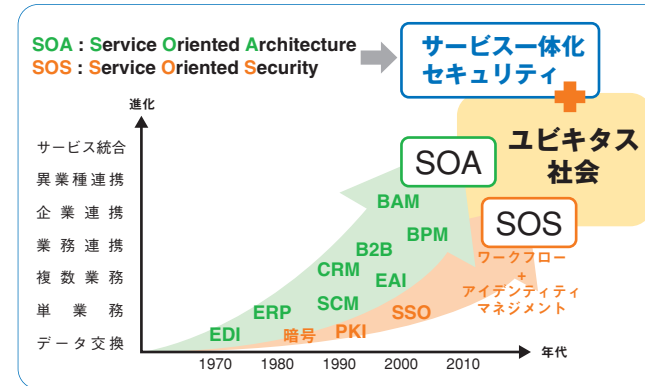
このようなインフラの整備が、携帯端末の機能性・利便性を高め、移動しながらでも情報にアクセスできるというモバイル化を、さらに推し進めます。これがビジネスの現場に大きな変化をもたらすことは容易に想像のつくことでしょう。

- その変化は、2つに大別することができます。
- ① いつでもどこからでも情報の収集・発信ができること
 - ② いつでもどこにいても管理がゆき届くこと

第一に、移動体通信の利用によってオフィスと出先とがシームレスに結ばれることで、たとえば移動中でも客先でも、オフィス内と同じように仕事ができるようになっていきます。つまり、オフィス内外での仕事のスタイルに差がなくなってくるユビキタスオフィスが進むでしょう。

第二に、携帯モジュールを搭載したパソコンが出てきており、インテルのvProやWindowsの

● ユビキタスセキュリティの進展



Vistaにより、リモートでパソコンを管理したり、モバイルにシャットダウンやパッチを当てることができ、ユビキタス管理がすぐに実現できます。

このようにIT化の対象範囲やマネジメントの対象空間が大きく広がっていますから、IT化はオフィスの中だけという発想はもはや通用しなくなっているといえます。

また、携帯電話やPDAの急速な普及と依存率を考えれば、モバイルツールのビジネス適用は、「あったら便利」というレベルでとらえるのではなく、「なくてはならない」という認識に切り替えるべきです。モバイルシステムを導入しようかどうか、その検討に時間を費やす時代ではなく、どのようなモバイルシステムを導入すれば既存事業の収益力をアップさせられるか、あるいは新規事業を立ち上げて業容を拡大させられるか、こういった検討をすべき時代になっていると認識することが大事です。

■ トータルな視点からモバイルをとらえたい

モバイルソリューションの導入に当たっては、トータルな観点から検討することが重要です。たとえば、営業マンが出先から業務報告を行うためのアプリケーションを携帯電話に搭載するとしましょう。この場合、単に報告データがオフィス内に蓄積され業務管理が行えればいいのか、あるいは受発注データも同時に集積して業務管理もできるようにするのか、さらには既存の基幹業務システムとどのように連携させれば、将来的な汎用性・拡張性を維持できるのかといった検討も必要でしょう。

また、ユビキタスネットワークの進化にともない、モバイルなセキュリティや無線ICタグを利用したICカードやRFIDなどの技術やサービスも常に革新されていきます。ですから、その動向を視野に入れつつ、通信ネットワークの有効活用からさまざまな端末アプリケーションの有効性を見積もっておく必要もあります。

ユビキタスオフィスの構築を、自社のビジネス発展という垂直軸とユビキタス社会を進展させる技術全般の水平軸とから、トータルにとらえておきたいということです。

■ いま求められるSOAという開発手法

このトータルティを実現するうえでキーになるのが、SOA (Service Oriented Architecture) という設計手法です。これは従来の

システム開発方法論ではなし得なかった、変化にすばやく対応できる能力、つまり適応性や拡張性を企業システムにもたらす、新たなシステム開発の考え方です。

ポイントは「サービス」という概念をベースにとらえ、開発プロセスを固定化せずに、ユーザーのニーズや市場の動向を反映してサービスやビジネスプロセスを容易に変更できるようなシステムを作ることです。

たとえば、これまで活用してきたレガシーシステムやサーバシステム、ERPやCRMなどの業務パッケージシステム、あるいはオープンシステムなど、一企業にたくさんの業務システムが混在しているケースを見かけますが、各システムは設計時のターゲットとなった業務処理に固定されており、他の業務への応用や複数の業務システムの組み合わせによる、さらなる合理化が難しくなっています。こういった、部分最適なシステムの複合体を、サービスという視点でオブジェクト化し統合します。そうすることで、システム全体の拡張性をつねに柔軟に保ち、すばやいユビキタス・モバイル分野の変化に即応していくことができます。

いつでもどこでもオフィスになるユビキタス環境では、このような手法によって、投資対効果や生産性の向上を実現することが欠かせません。

■ ますま重要度を増すセキュリティ

ユビキタスには残念ながら無視できない弱点もあります。いつでもどこでも、誰もがコンピュータを利用できるようになることで、システムへの不正侵入や情報漏えいの危険性も高まってしまいます。したがって、ユビキタス化の進展は、セキュリティ対策の強化とセットで進める必要があります。

この課題においても、企業活動においてユーザーのニーズや社会的なITインフラの進化に即応したセキュリティ対策を講じる必要があるでしょう。サービスの「安心・安全」という概念をSOAと同様にとらえ、必要かつ十分なセキュリティソリューションを備えるSOS (Service Oriented Security) としてシステムを整備することが大事になります。ネットワーク上での情報漏えいを防ぐ必要があるのか、データベース利用における個人認証・ユーザー管理を厳重にすべきなのか、システムの対外部防衛セキュリティを強化しなければならないのか、あるいはコンテンツの保護が急務なのか、こういったサービスの視点に立った検討を踏まえ、最適なセキュリティシステムを構築すべきでしょう。

また、セキュリティ課題については、失敗というものが許されない性質上、この分野で実績のあるベンダーを選ぶというのも忘れてはならないポイントといえます。

事業領域	事業内容
モバイルネットワーク	移動体通信の基地局、基地局制御装置系ソフトウェアの開発・試験・評価
モバイルネットワークサービス	移動体通信交換系ソフトウェアの開発、移動体NW系新サービスの開発
モバイル端末	モバイルJava、移動機用ソフトウェアの試験・評価およびアプリケーション開発
モバイルソリューション	モバイル応用サービスのソフトウェア開発
テレマティクス	カーテレマティクスやGPSケータイを利用した動態管理システムのインテグレーション・商品開発
セキュリティ	セキュリティに関する基本技術・プラットフォーム開発 パッケージを用いたソリューション提供、コンサルティング

【参考】 NTTソフトウェアの事業領域 (モバイル関連分野)



寺中勝美
Katsumi Teranaka
NTTソフトウェア株式会社
取締役
モバイル&セキュリティ・
ソリューション事業グループ長

モバイルソリューションの導入に成功する条件とはなにか



Katsumi Teranaka